

生活科事例Ⅰ

単元名 なかよし いっぱい だいさくせん（みんなで わくわく 学校たんけん）

第1学年 内容（1）学校と生活

1 単元の目標

学校探検を通して、分かったことや思ったことなどを話したり聞いたりする活動を通して、もっと学校と関わりたいという思いを持つことができる。

単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認。具体的な学習対象や活動に即して単元の目標を作成する。



2 評価規準

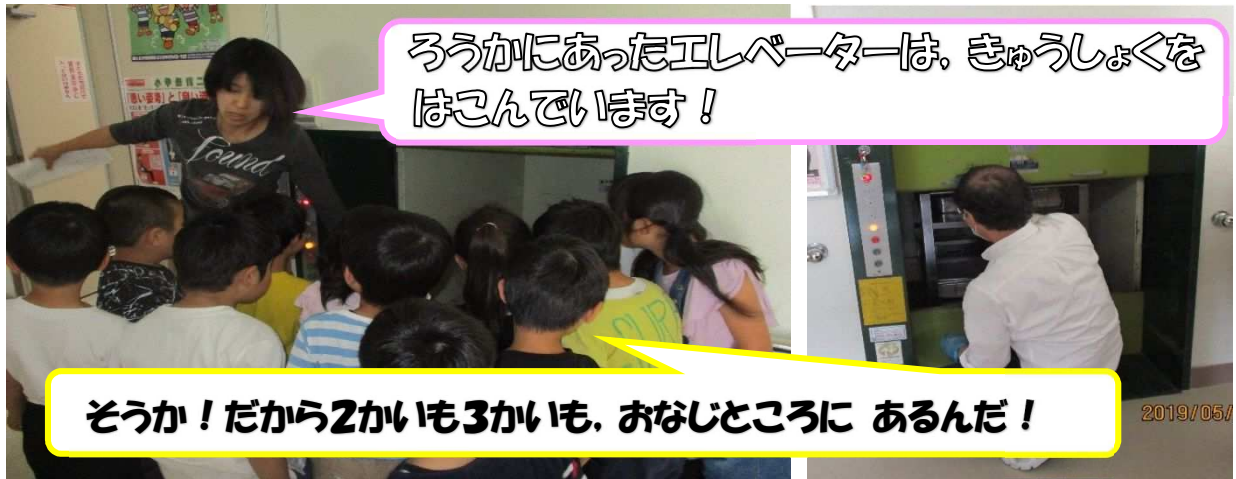
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 遊びや学校探検，伝え合う活動を通して，学校の施設や友達，学校生活を支えてくれる人々がいることに気付いている。 友達や先生など，周囲の人々との交流を通して，互いのことを理解し合い，心を通わせて関わることの楽しさを実感している。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく安心安全に学校生活を送れるように工夫するとともに，見付けたことやであった人々のことを伝えている。 学校にいる人々と関わりながら，そこで見たことや聞いたこと，思ったことなどを，自分なりに表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の施設や友達，学校生活を支えてくれる人々と進んで関わり，楽しく安心して学校生活を送ろうとしている。 友達や先生，学校にいる人々と進んで交流しようとしている。

3 本時の学習（12時／12時間）

(1) 目標 これまでの学校探検を振り返り，学校のひみつを話したり聞いたりする中で，学校への愛情や，もっと学校を知りたいという思いを持つことができる。

(2) 展開

	○主な学習活動・学習内容	・指導上の留意点 (教師の支援と評価)	備考
つかむ	1, これまでの学校探検を振り返る。 授業中だけでなく，休み時間に探検に行ったこともここで出せるとよい。	<ul style="list-style-type: none"> 学校探検で行った場所，教えてもらったこと，分かったこと等を，掲示物をもとに振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真を用意し，これまでの活動が思い出せるようにする。 
広げる	2, 自分が教えたい「A小学校のひみつ」をグループ（場所）ごと発表する。 発表の仕方は子どもたちが決めると，さらに意欲が持続する。	<ul style="list-style-type: none"> ◇初めて知ったことや，みんなに教えたいことを発表する。（発表・ワークシート）【知】 ・発表の仕方（礼，声の大きさ，スピード等）について確認をする。 ◇質問をしたり，発表で良かったことを発表したりする。（発言・ワークシート）【態】 ・発表を受けて，もっと知りたいことについてみんなで確認し，これからの学校生活の中で見つける意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に場所ごとにまとめることを決め，「ぼく・わたしがおしえます！Aしょう〇〇のひみつ」を作成しておく。
振り返る	3, 友達の発表を聞いたり，感想を伝え合ったりして，活動全体を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のどんな言葉に影響を受けたのか，時系列で記録しておくとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校たんけんをふりかえってみよう」プリントに記入する。



同じ場所、同じ対象物を見たり、話を聞いたりしているが、児童の経験、興味・関心等の違いで、ワークシートへは違う視点からかいている。低学年の児童は、表現する力に個人差がある。児童の表現によってのみで評価をしない。児童との対話の中から気付きを見取り、評価する。

「エレベーターは給食を運ぶ」と聞き、「だから同じ場所にあるんだ」と言った児童に、「なぜ同じ場所にあるのかな」とさらに問いかけると、「デパートで、たくさん人が乗ったエレベーターが、真っ直ぐ上がったり下がったりするのを見たことがある」と答えた。エレベーターは真っ直ぐ上下することや、たくさんの人が乗ることができるという生活経験の中で知り得たことと、目の前の事象とをつなげたことが分かる。そのことにより、学校についての新たな発見や、エレベーターに対する興味、「動かしているのは誰だろう？」という次の疑問が出てくる。

低学年の児童は発達や経験に個人差がある。児童が持っている知識や思いを、クラスの児童とのやりとりや、教師の問いかけで、引き出すことにより、学びが深まる様子を見取ることができる。

ポイント1 評価のタイミング

- 児童の観察の様子を見取る

児童の実態に沿った小単元を計画するが、小単元ごとに全ての児童の様子を見取することは難しい。小単元ごとにどこを見取るのかポイントを絞り、どのように評価するのかを具体的に決めておく必要がある。評価の具体的なポイントを教師が把握しておくことで、児童へ適した声かけができる。視点を変えるきっかけを教師が作ることで、児童の視点が広がり、今まで言語や絵等で表現されなかった気付きも、表現される場合がある。

ポイント2 表現方法

- 日常からの取組

表現方法には発言、行動、ワークシート、劇化、絵等がある。特に、1年生の初めのうちは自分の思いを文章に書くことを苦手と感じる児童もいる。意識して国語の授業や普段から短い文章を書く練習をしておく、生活科でワークシートを書く際に生かすことができる。絵で表現する際、図画工作との関連を図るなど、他教科での既習事項や、日常での取組等を活用できるとよい。